

## かぜ薬:ピーエル



ある薬局さんの薬学生の実務実習のお手伝いの中でのお話。一般用医薬品に関する内容でしたが、最近、テレビのCMでもお馴染みのパイロンPL錠®関連に個人的興味をもった話になります。

### 1) 風邪薬パイロン

パイロン(PYLON)の風邪薬としての歴史は古く、1961年10月にまで遡ります。当初はパイロンカプセルとして販売され、翌年2月に医療用PL顆粒が発売されました。ちなみにPLの名称は一般用薬PYLONを由来としています。ですからパイロンPL錠は「パイロン・パイロン錠」という意味になりそうです。パイロン(PYLON)自体の意味は、手元にある英和辞典をみますと、高圧線の鉄塔、飛行場の目標塔、古代エジプトの神殿の塔門とあります。身近に見るのは道路工事現場などによく置いてあるカラーコーンでしょうか。しかし、風邪薬との関連性が今ひとつ分かりませんでした。

パイロンを一般用医薬品として調べると、鼻炎薬を含めて9種類がヒットしていきました。

### 2) 医療用PL配合顆粒と一般用薬パイロンシリーズの成分の成人での1日量一覧表

製品名	医療用	一般用薬パイロン							
	PL配合顆粒	PL錠と顆粒	PL錠 ゴールト*	MK錠	S $\alpha$	S鼻炎顆粒	ハイEX	のむかぜ薬 <sup>14)</sup>	MX
用法	3回 <sup>1)</sup>	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回
年齢制限	2歳 <sup>9)</sup>	15歳	15歳	15歳	8歳	7歳	15歳	15歳	12歳
サリチルアミド*	810mg	648mg	648mg						
アセトアミノフェン	450mg	360mg	360mg		360mg		450mg	900mg	650mg
イブプロフェン				450mg					
エテンザミド*					900mg				
イツロピルアンチピリン <sup>15)</sup>							300mg		
無水カフェイン	180mg	144mg	144mg	75mg	75mg	60mg	75mg	75mg	150mg
プロメタジン <sup>2)</sup>	40.5mg	32.4mg	32.4mg						
dクロルフェニラミン <sup>11)</sup>						6mg		3.5mg	
dlクロルフェニラミン <sup>11)</sup>							7.5mg		7.5mg
クレマスチン					1mg				
ジフェニルピラリン <sup>5)</sup>				4mg					
デキストロトルファン <sup>3)</sup>			48mg		48mg		48mg		
ジヒドロコデイン <sup>6)</sup>				12mg				24mg	18mg
メチルエフェドリン <sup>10)</sup>					60mg		60mg	60mg	
プロムヘキシン <sup>4)</sup>			12mg		12mg				
グアヤコール <sup>7)</sup>				250mg					250mg

製品名	医療用	一般用薬パイロン							
	PL配合 顆粒	PL錠と 顆粒	PL錠 ゴールト	MK錠	Sα	S鼻炎 顆粒	ハイ EX	のむか ぜ薬 <sup>14)</sup>	MX
カルボシステイン					750mg				
ペラドンナ <sup>12)</sup>						0.4mg			
ヨウ化イソプロパミド							6mg		
グリチルリチン酸 <sup>13)</sup>						75mg			
オウヒエキス					24mg		120mg		
カンゾウエキス					108mg		140mg	70mg	
麻黄湯エキス <sup>16)</sup>									360mg
アスコルビン酸 <sup>8)</sup>				410mg			100mg	500mg	
ヘスペリジン							90mg		

1) 医療用は **1日4回** (臨床試験結果で有効性安全性が確認。**1日3回**は適宜増減と臨床経験上の量) なので添付文書上は上表の 1.33 倍、2) 酢酸塩として、3) 臭化水素酸塩として、4) 塩酸塩として、5) 塩酸塩として、6) リン酸塩として、7) スルホン酸カリウムとして、8) アスコルビン酸単体換算、9) 幼児用 PL として、10) d1 体の塩酸塩として、11) マレイン酸塩として、12) 総アルカロイドとして、13) ニカリウム塩として、14) 正式名は「溶かしてのむかぜ薬」、15) ピリン系、16) 医療用麻黄湯エキス(7.5)は 1日 1750mg。

### 3) まとめ(スペースの関係で中途半端な考察になってしまいました)

#### ①医療用PL顆粒とパイロンPL(錠/顆粒)

・適応症の表現は医療関係者用と一般の人向けで多少の表現は異なっていますが、ほぼ同じと考えてよいでしょう(下線部分が共通の症状と読み取れます)。

**医療用**：感冒若しくは上気道炎に伴う下記症状の改善及び緩和：

鼻汁、鼻閉、咽・喉頭痛、頭痛、関節痛、筋肉痛、発熱

**一般用**：かぜの諸症状(鼻水、鼻づまり、のどの痛み、頭痛、関節の痛み、筋肉の痛み、発熱、くしゃみ、悪寒(発熱による寒気))の緩和

・成分こそ同じですが成人1日量は、一般用が医療用の丁度**8割量**になっています。

●両者ともに**風邪の初期症状**用として利用され目的は同じです。私個人としては医療用PLで熱が下がる時は下がりますが、医療用の**8割量**でどれだけの人に効くのでしょうか？もし効果があるとすれば、逆に医療用の含有量は多すぎるとい話にもなります。

#### ②アセトアミノフェン

・多くの風邪薬に利用される解熱鎮痛成分ですが、1つの解熱鎮痛成分で風邪薬を構成する際には**900mg**(のむかぜ薬)と多く、2成分配合する際には半分以下に量が抑えられているようです。

#### ③麻黄湯エキス

・パイロン**MX**に配合されていますが、**医療用**麻黄湯エキスの**2割**程度しか入っていないので、十分に効くのかという疑問がでてきます。**アセトアミノフェン**を**650mg**と多めに入れ、**ジヒドロコデイン**も配合していますから、**MX**の効果の多くは西洋薬によると思われます。

・**コフト顆粒®**という**葛根湯**エキスと**総合かぜ薬**を融合させたOTC風邪薬もありますが、医療用の葛根湯エキスの**42~66%**の含有量であり、そもそも漢方薬と西洋薬の風邪薬を配合してどれだけ風邪の初期症状に効果があるのでしょうか？単独使用とどれだけの違いがあるのでしょうか？(終わり)